



令和2年3月16日発行 中等新報第42号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

地域学習のまとめ ～「地方」の魅力を考える～



1月28日(火)に行った「地域創生ワークショップ・市議会議員との交流」

5年生は、この1年、地域の課題や活性化について考え、自分たちにできることは何か検討してきました。1月には、市議会から7人の議員をお迎えし、自分たちで考案した企画書について様々なご助言をいただきました。そのときの様子は、2月2日付け「村上新聞」、2月5日付け「新潟日報」にも掲載されています。

以下に、「地域学習から学んだこと」と題した生徒の感想を紹介します。

5年2組 馬場 梨歌さん

私がこの地域学習をとおして学んだことは、地方の魅力は都会で十分通用するというのだ。今回の地域学習で、私は宿屋「いろむすび」の古林さんにお話を伺った。古林さんは、村上を活性化しようとする事業を始めたことと、現に定期的に東京へ売りに行った山菜は、短期間で飛ぶように売れ、今やブログやSNSで名を広めているらしい。この話を聞いて、自分たちが普通だと思っていることでも、他の地域から見れば、魅力と捉えられる可能性があることに気が付いた。「何もない」と嘆いてばかりいるのは、私たちの地域が持つ「当たり前」の魅力に気付いていないだけであり、その見つけ方や広め方をもう少し工夫すれば、グローバル化の波に飲み込まれることなく、地域の魅力を発信し続けることができるのではないかと。

現代文の授業で、内山節の「この村が日本で一番」を読んだ。その一節に、「現在の私たちは、グローバル化していく市場経済の中で暮らしている」とある。このグローバル化していく世界で、私たちはローカルな、関わり合う世界を失いつつある。しかし、こう考えることはできないだろうか。保守的になるのではなく、むしろ地方としてのローカルな魅力を持続させることによって、それを私たちの誇りとすることができ、その誇りがグローバル化に流されない、「我らが世界」を支えていくのではないかと。地方の魅力でも、いや地方の魅力だからこそ、都会や海外で賞賛され、受け入れられる可能性がある、と私は考えている。

地方の魅力は、自分の地域には何もないとただ嘆いているだけでは見付からない。「当たり前」を見つめ直し、それを磨いて、「我らが世界」を見失わないようにしたい。

各班の企画について丁寧にアドバイスくださる市議会議員の皆様



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773

HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>